



Kusa:(No. 063)
 Katakuchi Chidori.
 Book Vol 1--2.

~ 13
 3817



門 へ13
3817
卷



敵討衛玉川

前編三冊後編三冊
共出来賣出申候

無言惟識含情
意有句全看背
面時

文化三年丙寅秋編成
今四年丁卯春發行

山東京傳作



Kuse: (No. 065)
Book Vol 1--2.
Katakibuchi Chidori.



けいぎの御代もや
うららの御代もや
さなきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや

あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや



あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや

あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや
あつきの御代もや

御本
御本

此の御座る御座り
 ひびきの下へは移され
 小のつたれはさう
 てこそさうらひ
 ぬも生田を
 うーくをい
 ながひふそ
 あさりの
 のめらふ
 けりおあ
 ぬきま
 ぶらぬのめい
 んいーわけん
 のんくのめい
 らめつくのめい
 あつくとお
 くれ
 くら

火之用心



あつくとお
 らめつくのめい
 ぬきま
 ぶらぬのめい
 んいーわけん
 のんくのめい
 らめつくのめい
 あつくとお
 くれ
 くら

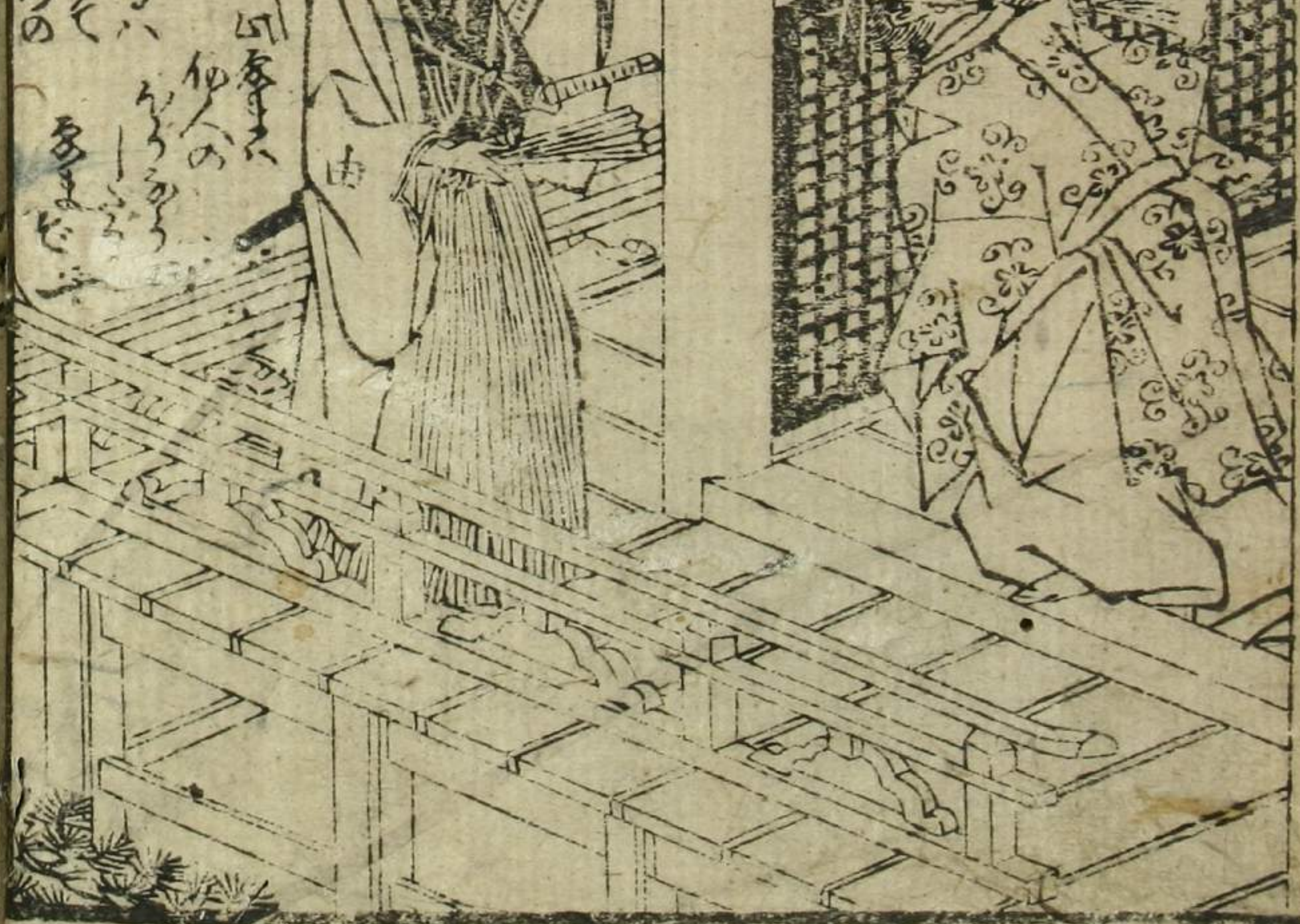


「Konon
Konon」

かくて申利のあん
 ふうはかどなく
 けちの國ふりの
 うんがふふえ
 ちののんついで
 ありやあき
 かの小あやまき
 けりまは
 ふふふ
 こと平岡
 あり林本
 さんか
 ふふふ
 けりあき
 まま
 こと平岡
 あり林本
 さんか
 ふふふ
 けりあき
 まま



申利のあん
 ふうはかどなく
 けちの國ふりの
 うんがふふえ
 ちののんついで
 ありやあき
 かの小あやまき
 けりまは
 ふふふ
 こと平岡
 あり林本
 さんか
 ふふふ
 けりあき
 まま



竹の葉の影をうけて
 静かに坐す女は
 遠くを望む
 心の奥に
 涙の淵を
 覗き見
 する
 時
 風が
 吹く
 髪が
 揺れる
 影が
 伸びる
 静寂が
 壊れる
 涙が
 落ちる
 大地に
 響く
 静かな
 悲鳴



静かな
 悲鳴
 大地に
 響く
 静寂が
 壊れる
 涙が
 落ちる

静かな
 悲鳴
 大地に
 響く
 静寂が
 壊れる
 涙が
 落ちる
 大地に
 響く
 静かな
 悲鳴



静かな
 悲鳴
 大地に
 響く
 静寂が
 壊れる
 涙が
 落ちる



かそ由利のえん
 ろのつばたつら
 いかのいんとまへんあやのり
 うやうやういふさしてゆきさ
 たらかいとまへんあやのり
 うらまへんあやのり
 きらりあやのり
 何れか由利のしんまつひしり
 せんとあやのり
 いふきとあやのり
 いかのいんとまへんあやのり
 いかのいんとまへんあやのり
 いかのいんとまへんあやのり

あやのり
 何れか由利のしんまつひしり
 せんとあやのり
 いふきとあやのり
 いかのいんとまへんあやのり
 いかのいんとまへんあやのり
 いかのいんとまへんあやのり

あやのり
 何れか由利のしんまつひしり
 せんとあやのり
 いふきとあやのり
 いかのいんとまへんあやのり
 いかのいんとまへんあやのり
 いかのいんとまへんあやのり

由利のあんがしまねがわらわの
 少ののちをきよあんとあんが大
 ぶ夫のいそをりようらまねに
 ちうせりわあをくむあまき
 しなれとあひあまうらんと
 させ小さんほああのそらうまを
 ひろのあをなるまんとあて
 申利のいそあまのつけたふ
 おんりきつていさあまをた
 いまごまてこのいさありそんやの
 てあまうまをりらんかま
 たまうらして今まのけやあ
 うらびあひさしうけつてのい
 いさたて死うまをこれあゆら
 うらうらあまをいそあてあけ
 あまごまひひ小さんまをい
 ちあひあまをうまをい
 あまごまていさあまをい
 めとあていさあ
 むのいさあま



いそあま
 まかーち
 うまをい
 うまをい
 うまをい
 うまをい
 うまをい
 うまをい

由利のあんがしまねがわらわの
 おんりきつていさあまをた
 いまごまてこのいさありそんやの
 てあまうまをりらんかま
 たまうらして今まのけやあ
 うらびあひさしうけつてのい
 いさたて死うまをこれあゆら
 うらうらあまをいそあてあけ
 あまごまひひ小さんまをい
 ちあひあまをうまをい
 あまごまていさあまをい
 めとあていさあ
 むのいさあま



いそあま
 まかーち
 うまをい
 うまをい
 うまをい
 うまをい
 うまをい



小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 ひとりのごとくやしむひなれど小え
 も旅をさうらふとどつちのちの
 てきり
 つきり
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 ひとりのごとくやしむひなれど小え
 も旅をさうらふとどつちのちの
 てきり
 つきり

母が
 小まを
 小まを
 小まを

小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 ひとりのごとくやしむひなれど小え
 も旅をさうらふとどつちのちの
 てきり
 つきり
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 ひとりのごとくやしむひなれど小え
 も旅をさうらふとどつちのちの
 てきり
 つきり



小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 ひとりのごとくやしむひなれど小え
 も旅をさうらふとどつちのちの
 てきり
 つきり
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 小まをさうらふは祇げがいのえといひ
 ひとりのごとくやしむひなれど小え
 も旅をさうらふとどつちのちの
 てきり
 つきり

さえもろくも...
 ぶな...
 お...
 う...
 ...

...
 ...
 ...



これい
 ...
 ...

...
 ...
 ...

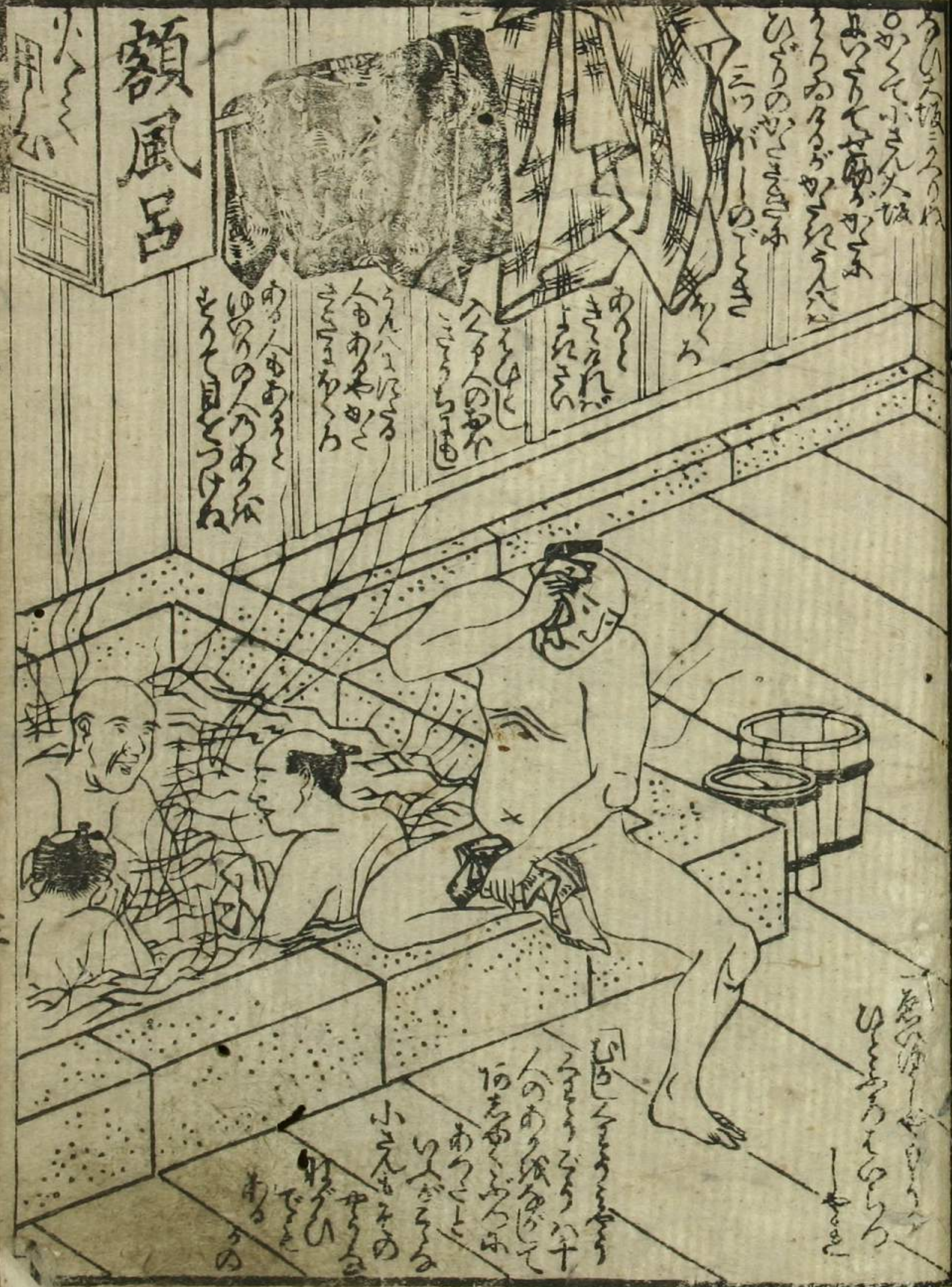


...

...

...

額風呂



用い

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

そのまゝ...
あつては...
あつては...



あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

あつては...
あつては...
あつては...

お月が
ひららの
花のよ
まを



母のゆい
かんきん
がじつ
のつし
お月が
ひららの
花のよ
まを



お月が
ひららの
花のよ
まを



お月が
ひららの
花のよ
まを

お月が
ひららの
花のよ
まを



お月が
ひららの
花のよ
まを

今更神いぢの母さりとて
 何れおのほぢなきいづらふ不も
 けりなつたふんふんいさきも
 るまにかつこをなすりけれか
 こころがきいさつしそのあし
 のしよきふふのすあふいし
 してきん率いふあしひさか
 といふたふんふんいさきも
 かのはそのたふんふんいさ
 きてせのあつたふんふんい
 えあつたふんふんいさきも
 てあつたふんふんいさきも
 あつたふんふんいさきも
 るまにかつこをなすりけれか
 こころがきいさつしそのあし
 のしよきふふのすあふいし
 してきん率いふあしひさか
 といふたふんふんいさきも
 かのはそのたふんふんいさ
 きてせのあつたふんふんい
 えあつたふんふんいさきも
 てあつたふんふんいさきも
 あつたふんふんいさきも



この
 まは
 さる
 まは
 まは

らうきいぢの母さりとて
 何れおのほぢなきいづらふ不も
 けりなつたふんふんいさきも
 るまにかつこをなすりけれか
 こころがきいさつしそのあし
 のしよきふふのすあふいし
 してきん率いふあしひさか
 といふたふんふんいさきも
 かのはそのたふんふんいさ
 きてせのあつたふんふんい
 えあつたふんふんいさきも
 てあつたふんふんいさきも
 あつたふんふんいさきも



この
 まは
 さる
 まは
 まは

いぢ
 是一か
 乃

三つともろりたれ
 うん八つひふねと
 人のかしらとさうり
 むらぶりのさつめ
 下もふねさつめ
 一志は末はつめ
 けりさつめ
 たいしとつめ
 のふへさつめ
 七つめ
 六つめ
 五つめ
 四つめ
 三つめ
 二つめ
 一つめ



どの女のかしらとさうり
 八つは母のかしら
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ
 さつめ



三つともろりたれ
 うん八つひふねと
 人のかしらとさうり
 むらぶりのさつめ
 下もふねさつめ
 一志は末はつめ
 けりさつめ
 たいしとつめ
 のふへさつめ
 七つめ
 六つめ
 五つめ
 四つめ
 三つめ
 二つめ
 一つめ

合はぬは女のはかばかしくあつてはなれども
 小きんもつてあつたをたつてはなれども
 仰うのふんたつてあつたをたつてはなれども
 縁のふんたつてあつたをたつてはなれども
 一がらふんたつてあつたをたつてはなれども
 ねんたつてあつたをたつてはなれども
 七つりのらうたんきりりて
 ぶらうたつてあつたをたつてはなれども
 おのひたつたあつたをたつてはなれども
 けあつたあつたをたつてはなれども
 ねんたつたあつたをたつてはなれども
 いたつたあつたをたつてはなれども
 あつたあつたをたつてはなれども
 人のあつたあつたをたつてはなれども
 二つたあつたをたつてはなれども
 よつたあつたをたつてはなれども
 たつたあつたをたつてはなれども
 いつたあつたをたつてはなれども
 いつたあつたをたつてはなれども



今もいふれそののりていんかのまぢや
しやとらん人まうられやとやりのよりそ
よりのいかりいしくみしめてまの
かそとらんゆりさ金を使まららんか
まうらんとしけれやせらんか
目とていしおまうか
いせんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや

かたし合ひあつていんかのりよら
とせんやせんやせんや
おやふ君の大さめんしやとらんや
たれんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや



せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや

かたし合ひあつていんかのりよら
とせんやせんやせんや
おやふ君の大さめんしやとらんや
たれんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや



かたし合ひあつていんかのりよら
とせんやせんやせんや
おやふ君の大さめんしやとらんや
たれんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや

せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや
せんやせんやせんや



明治四年歲在辛未如月爲表具

印傳屋是造所持



そのとほを合めし小入のまゝのせりぬかき
合ふ所ののつねにたつたつるんかたひと
さして小入のまゝにたつたつてゆりのをを
もふたはけてふのふとををさうた坂
さしたるしとせりぬかき
小入のまゝにたつたつてゆりのをを
さしたるしとせりぬかき
合めしとせりぬかき
あつたつとせりぬかき
さしたるしとせりぬかき



あつたつとせりぬかき
のまゝにたつたつてゆりのをを
さしたるしとせりぬかき
そのまゝにたつたつてゆりのをを
さしたるしとせりぬかき
あつたつとせりぬかき
のまゝにたつたつてゆりのをを
さしたるしとせりぬかき

あつたつとせりぬかき
のまゝにたつたつてゆりのをを
さしたるしとせりぬかき

